

# 空手道MAC NEWS



## イラン遠征日記 案内役 空手道MAC副代表 石島 偉樹 MAC茨城 吉原支部長

2009年11月19日～26日の一週間、空手道MACの石島は、茨城吉原支部長と共に日本を離れイランに向かった。今回は、同団体初の海外支部、イラン支部の設立が目的である。

成田を飛び立って北京で給油、16時間をかけ何とかテヘランに着いたのは夜中の3時だった。空港では空手道MAC設立当初から茨城支部で修行し、空手道MAC初の外国人黒帯として大会でも活躍したアフマド・ラフマニが迎えてくれた。



彼は、イラン人ではあるが、日本人よりも日本人らしい礼儀を重んじる純粋で謙虚な武道家である。

イランは日本と違い徴兵制度のある国である。2年間は軍隊に所属し、国の為に身を置くのが義務になっている。また日本以上に武道を愛し、多くの人々が武道を学んでいる印象だ。フルコンも盛んではあるが特にテコンドーは国を挙げての教育制度が充実しており、ジュニア選手からプロ選手育成を目指し大会や団体も多く、世界的評価も高いと聞いている。イランは砂漠の国とばかり想像していたが、雪山もある。テヘランは東京よりやや寒いものの時期的には一番良い季節のようであった。5年越しのアフマドの努力が実り、イラン協会に承認を得る事ができた。日本から空手師範が来るという知らせで、いきなり8名の入門者があり、熱い思いを抑えながら空手道MACイラン支部の初稽古に汗を流した。



イランの食事と言えば代表的な「キャバプー」肉料理である。どこに行っても肉料理で一週間なら日本人でも美味しく頂けそうである。パンやナンに挟んで食しますが、最大の難点はアルコールがイラン国は禁止なのである。フルーツ、お米やサラダも美味しいが、やや物足りない！ビールを飲みたいところを炭酸で我慢する。



また、アフマド支部長は、この

イランの物価は、日本に近いがやや高い様に思える。紙幣はドル、トマンが使えるが、日本人が満足できるホテルを選ぶならば一泊120ドルぐらいは必要。トイレが日本の様式とは異なり、説明はしにくいがトイレ形状が違い何か快適にはいかない。交通機関は電車があまり通っていない為、車かバイクやバスで移動するが交通ルールはやや不明。



また、アフマド支部長は、この

イランの物価は、日本に近いがやや高い様に思える。紙幣はドル、トマンが使えるが、日本人が満足できるホテルを選ぶならば一泊120ドルぐらいは必要。



トイレが日本の様式とは異なり、説明はしにくいがトイレ形状が違い何か快適にはいかない。交通機関は電車があまり通っていない為、車かバイクやバスで移動するが交通ルールはやや不明。

ちょうどこの遠征期間にイランはキシユ島でジュニアオリンピックテコンドーアジア大会が開かれていた。本場のテコンドーを見学する為、目まぐるしい旅行日程ではあったが、キシユ島に足をのぼした。この大会には、私達の師である安田郁雄監督率いる日本代表選手達も参戦し、本場のアジア有力選手と堂々たる闘いで、見事3階級で銅メダルに入賞する活躍であった。日本に帰国前に安田先生の計らいで、地元イランテコンドー道場のプロジュニア選手達の稽古も見学する事が出来た。

さすがに蹴りのテコンドーの凄さを見せつけられた私達は、テヘラン武道商店街に行き、イランの土産としてMAC各支部にイランのオリジナルミットを購入した。

この遠征での印象は、イランは日本と違い、物価的に厳しい中でも武道をこよなく愛する国に映り、また日本国内の報道ではイスラム教徒の圧力や規制に縛られた国のように感じますが、イランの人々は勤勉で明るく開拓心に満ち礼儀正しい人々が多いように思えました。機会があれば、またぜひ足を運ぼうと思います。

